

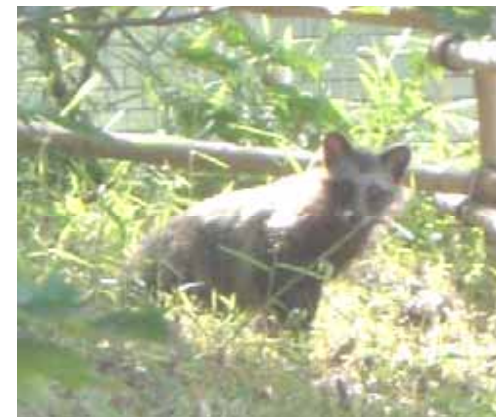
たぬきも

住み心地のよい?! どんぐり山



JR埼京線 中浦和駅より徒歩10分。
東京のベッドタウンとして住宅地の広がるエリアに「どんぐり山」があります。
医王寺に属する裏山で、自然が豊かに残るため、動物たちはもちろんのこと、隣接する浦和ひなどり保育園の子どもたちにとってもオアシスになっています。
第8回さいたま市景観表彰において、どんぐり山の自然体験は「さいたま市景観協力賞」を受賞しました。

私が小学生のころは、まだまだ田んぼや畑がたくさんあり、雑木林も点在する、自然の豊かな場所でした。
近隣には古墳もあり、JR埼京線・新幹線の工事中には、古代の遺跡が出土したこともあり、昔から生活の場となっていたことがうかがえます。
JR埼京線の開通により、便利にはなりましたが、マンションが乱立するベッドタウンへ様変わり、夜にぎやかだったかえるの合唱も聞かなくなりました・・・



自然は失われ、子どもたちが外で遊ぶ姿もあまり見られなくなり、このような状態ではいけないと「どんぐり山」が整備されることとなったのです。
今では園児たちは毎日のようにどんぐり山に遊びに行き、さまざまな体験をして、成長しています。

どんぐり山に出没する
たぬき

私の娘たちが通う保育園に隣接する、いつまでも残しておきたいどんぐり山の自然を推薦します。



どんぐり山への入り口
とんな空間が広がっているのか、楽しみ！！

私が幼かった頃（かれこれ30年前）は、医王寺の墓地に隣接する木々がうっそうと茂るこの裏山に忍び込み、冒険ごっこ、虫取りをしたものです。

現在は、(財)埼玉県生態系保護協会のご指導のもと、「地域の野生の生きものが自立してくらすことができる空間」をつくり、子供たちが生きものとふれあえる場所にしようと、草を刈り林道をつくるなどして、2年程前「ビオトープ」として整備されました

どんぐり山は年間を通してさまざまな恵みをもたらしてくれます。

春は「たけのこ」がよきによき！
保育園から畑当番の子どもたちがやってきて、たけのこ取り。皮むきもします。
そして・・・給食の一品になるそうです。
一日に30センチも伸びる竹もあるとか。

6月、保育園の年長さんは「流しそうめん」体験。私も作業に参加してきました。
太い竹を切り倒し、半分に割って、やすりをかけて・・・。

流しそうめんの味は格別で、子供たちの箸も進みました！



5月初旬の
どんぐり山



竹のぼり



多くの
子ども達が
挑戦！
かなり上まで
のぼれます

自然と共存、動植物も子どもも、いきいき！



この近隣ではたぬきの目撃情報があります。

大日如来が安置されるお堂のそばには、たぬきのトイレがあります。うちがこんもりお山になっているとか・・・

6月頃には、どんぐり山の倒木の陰に身をよせる、赤ちゃんたぬきも確認されています。

私も8月のある夕方、民家を通り抜け、どんぐり山へ向かうたぬきを目撃しました。

おおきくな～れ
7月中旬、竹の根元に見つけました。
落ちたどんぐりから、芽が出て若葉がついています。
こうして森ははぐくまれ、次の世代へと引き継がれていくのですね・・・。

どんぐり山の名前の由来のとおり、秋になるとたくさんのどんぐりが実ります。
子どもたちはポケットやバケツにどんぐりをいっぱいつめて山から戻ってきます。
山の恵みを、日々の工作等に利用し、それぞれがすてきな作品を生み出しています。

いつまでも残したい 豊かな自然と心

